

書店や図書館の大きな書棚に、ぎっしり並んだ本、本、本。それらを見ると、つい想像するの
が、その1冊ずつに記された作者なり訳者の名前の陰に、どれだけ多くの尽力と、どれだけ膨大
な時間がかけられたかということ。

映画なら、かならず最後に延々と、制作に関わった人々の個人名や団体名がスクロールされ
て、観客にその尽力がいくばくかは伝わる。つまり、監督と俳優だけが造ったのではなく、カメラ
マンをはじめとする大勢の力あってこそその作品完成だからだ。

ところが書籍の場合、印刷会社や製本所の社名はあるが、編集者という言葉と文体、本造りの
プロの個人名が、ほとんどの場合、出版社名にかくれて明記されない。

じっさい、自分の経験から、編集者の知識と根気がなかったら、とても上梓にまでいたっていな
いと思う。より確かな言葉の言い回しや、また、原作の中ですでに起こっている矛盾にいち早く気
づくのも、実は、訳者ではなく編集者であることが多い。

訳稿に赤を入れて、原作に忠実に何度も校正をくり返していくのだが、途中で、こんな訳者をけ
とばしたくもなるだろう。なのにけっして怒らず、遠まわしに問いかけて、こちらの気づきを待つてく
れる。なんと！ にくい練達だろう。

わたしは、巻末で編集者へのたった1行の謝辞では、あまりにも軽すぎる気がして、今まであえ
てお名前と謝辞を記さなかった。しかし、優れたプロの個人情報、ほんとうの意味で尊重する
にはどうしたらいいか、ずっと考えている。